

第6回 ツアラアトからのきよめ

(1:35~45)

《アウトライン》

1. カペナウムからの出発 (35-39 節)
2. ツアラアトについて (40 節)
3. きよめの奇跡 (40-45 節)

《結論》 きよめ主イエス

《聖書研究メモ》

「ツアラアト」→ヘブル語で「ツアラアト」、ギリシャ語で「レブラ」

1. 訳語の確認
 - ・ 新改訳第三版&2017「ツアラアト」
 - ・ 新共同訳「重い皮膚病」
 - ・ 聖書協会共同訳「規定の病」
2. レビ記 13:3
祭司は、そのからだの皮膚の患部を調べる。その患部の毛が白く変わり、患部がそのからだの皮膚よりも深いところに見えているなら、それはツアラアトに冒された患部である。祭司はそれを調べ、彼を汚れていると宣言する。
3. 「きよい」(clean) と「汚れ」(unclean)
 - ・ きよい：神との関係性に入ることができる状態
 - ・ 汚れている：神との関係性に入ることが許されていない状態
4. 旧約聖書に登場するツアラアトに冒された人物
 - (1) モーセの姉ミリアム (民 12:9-15)：罪への裁きとしてツアラアトに。7日後に癒された。
 - (2) ウジヤ王 (2列 15:5)：罪への裁きとして死ぬまでツアラアトに。
 - (3) アラムの將軍ナアマン (2列 5:1-9)：預言者エリシャを通して癒され、イスラエルの神を信じるようになった。
 - (4) エリシャのしもべゲハジ (2列 5:19-27)：罪への裁きとしてツアラアトに。(癒されたという記録なし)
5. ツアラアトに冒された人は、共同体から隔離されることとなった。
患部があるツアラアトに冒された者は自分の衣服を引き裂き、髪の毛を乱し、口ひげをおおって、『汚れている、汚れている』と叫ぶ。その患部が彼にある間、その人は汚れたままである。彼は汚れているので、ひとりで住む。宿営の外が彼の住まいとなる。(レビ 13:45-46)
6. 古代ユダヤ教では、「ツアラアトを癒することができるのはメシアだけ」という考えも生まれていた。